

Yes, We Can

小規模事業者持続化補助金

明日をつくる



株式会社 柏木商店
柏木 敏孝

淡路市志筑新島の一角に大きな敷地と白い建物が目に映る。建設資材販売や太陽光発電事業などを取り扱う株式会社柏木商店さんである。創業は大正10年12月、法人設立は昭和21年11月と古くから商いを行ってきました。

さて今回は代表取締役柏木敏孝さんに小規模事業者持続化補助金でどのような取り組みをしたのかお話を伺ってきました。まず取り組んだのは、

- ① ホームページの開設
 - ② 動画の作成
 - ③ パンフレット・チラシの作成
 - ④ 淡路市広報誌への掲載
- の4つでした。

今回のお話は商工会から小規模事業者持続化補助金の制度を聞いたことに始まり、柏木さんは社員と話し合いどんなビジネスモデルを作れば良いかを話したそうです。そこで、近年多発する災害により防災意識が高まっていることに着目し、活用されていない助成金を活かして防災グッズの販売また展示することで地域の安全・安心に役立つお手伝い出来るのではないかと考えました。

事業の反応はすぐにあり、特に淡路市広報誌の影響は大きかったそうで、各方面からどんなグッズがあるのか問い合わせが来ているそうです。

またこのビジネスモデルで兵庫県経営革新計画の承認を取得され、今後の展開も楽しみです。

昨今では淡路市の制度で自主防災組



織拠点整備事業補助金などもあり、町内会で防災の備品に対する援助もあるそうです。「申請等で分からないことがあればお手伝いするので一度声を掛けてみてください」とのことでした。ホームページの見出しのところに「明日をつくる」と書かれています。明日につながるため、備えるために今一度防災に対して取り組まれてみてはどうでしょうか。地域の近くにワンストップで防災に対して助成金申請から設置まで考えてくれる会社がある。そこで相談するのが地域の明日をつくることではないでしょうか。

志筑新島の一角に大きな敷地と白い建物の防災の為に拠点があります。
(山崎 晃稔)

淡路市志筑にある志筑印刷株式会社さん。創業はなんと明治26年の老舗である。

明石さん曰く、「よくもまあ、これだけ長い間会社を継続できてるよ。(笑)地元の皆様は本当に支えてもらっているおかげです」とのこと。だが、近年パソコンの普及により、商業印刷物や印刷会社でしかできなかったデータ作成等、一般の方のスキルの向上と、企業の高いパソコンスペックデータの入稿が急増している。さらにはネット印刷への持ち込みなどで売上は減少

し、利益につながる受注ができていないことが悩みの種だそう。

そこで、今後は益々受注しにくい環境が想定される中、新しい利益を生む事業の展開をしなくてはいけないと思い、経営革新の承認を得てAR(拡張現実)ソフトを導入。

AR(拡張現実)ソフトとは、専用無料アプリをダウンロードし、印刷物にスマホをかざすだけで、写真のスライドや動画が流れる。紙面では表示しきれないコンテンツを見ることができ、より多くの情報を伝える臨場感を出す事ができる。

「実際、島外では観光施設のPRにもよく使われていて、京都のお寺のパンフレットなんかは、仏像の由来を、ナレーション付き動画で説明しているから、スマホをかざしているよ。もちろん、外国人向けにも英語や中国語等も対応しているしね。無言の説得力やわ！」と話を聞か

せていただきました。

初めはピンとこなかったが、実際に最近アップしたと言う動画を見せてもらいました。(地元飲食店)のARを搭載したパンフレットに、スマホをかざすとPR動画が流れます。店内情報や一押しメニューを紹介していました。特に、お肉を焼くときの映像と音も聞けましたので、自分がお肉を食べている状況を想像してしまい、食欲をかき立てられるほど音の効果は絶大でした。そして、ホームページへの誘導もできるので、宣伝方法としては画期的だと思います。ですが、まだまだARの認識度は曖昧で、課題としてはまずARを知ってもらうこと、なができるのか、それぞれの現場でARの必要性を考えながら、顧客に応じた満足できる新しいサービスを提供していかないといけない。とも語られました。今後はさらに、ARを活用した印刷物の納品梱包紙に宣伝情報に加え、企業間のマッチング広告として、利益拡大を目指すようです。

皆様も是非ARを体感してみたいかがでしょうか？
今後の動向に注目したいです。

(森田 晃生)



経営革新

動く印刷物で 最大限の効果！

志筑印刷株式会社

明石 章良